
信州大学教育学部附属長野小学校 6 年 1 組 – 広がれ つながれ 木の輪 ～木の魅力や現状を伝えたい～

信州大学教育学部附属長野小学校の 6 年 1 組では、「木」に関する探究を 1 年以上かけて継続的に行い、その魅力や現状を多くの人々に伝える活動を進めてきました。地球環境や暮らしに深く関わる森林資源について、体験と発信を通じて理解を深めていく実践的な学びが展開されました。

木の役割と森林が抱える課題を学ぶ

児童たちはまず、木の持つ環境保全機能や建材としての価値に注目しました。二酸化炭素を吸収して酸素を排出する木の働きが地球温暖化対策に貢献していること、また日本が森林大国であるにも関わらず輸入材に依存している現状を学びました。こうした課題への関心が、国産材の活用や放置林の再生といったテーマへとつながっていきました。

校内・地域での実践的活動

校内ではオリジナルの樹木プレートを制作し、QR コード付きで木の情報を提供。校庭の木々を教材とした「木の博物館」を構築しました。また、地域の森林組合や製材所、NPO などとの連携により、実際の林業現場を訪問し、木の伐採・加工の工程を学ぶとともに、木を生かす知恵と技術に触れる貴重な体験を重ねました。放置竹林の問題にも目を向け、伐採した竹を竹炭に加工する活動では、地元企業や団体との協働を通して、地域資源の循環的活用に取り組みました。

木の魅力を伝えるイベントの開催

「びんずる市」という地域の市に出店し、手作りの木のアクセサリや木製品を販売。来場者にクイズやパンフレットを通じて木の魅力と課題を伝えることに挑戦しました。1 回目の出店で課題を感じた児童たちは、2 回目では伝え方を改善し、パンフレットや商品に工夫を凝らすことで、より深い理解を促す活動へと進化させました。

未来への展望

児童たちは、木の魅力や現状を知ってもらうことが、森林の保全や地球環境の未来につながると信じ、自らの手で発信を続けています。今後は木の花を用いたフラワーボックスを制作し、公共施設で展示することでさらに多くの人に木の可能性を伝えていく予定です。